



平成 23 年 3 月 23 日

各 位

会社名：株式会社十六銀行
(コード：8356 東証・名証第一部)
代表者名：取締役頭取 堀江 博海
問合せ先：経営企画部長 名知 清仁
(TEL：058-265-2111)

「第 1 2 次中期経営計画」の策定に関するお知らせ

当行では、平成 23 年 4 月から平成 26 年 3 月までの 3 年間を計画期間とする「第 1 2 次中期経営計画」を策定いたしましたので、概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 名 称

「第 1 2 次中期経営計画～輝かしい明日へのテイクオフ～」

2. 策定の経緯

当行は、平成 21 年 4 月より「第 1 1 次中期経営計画～お客さまの夢を叶えるベストパートナーバンクへの挑戦～」に取り組んできました。今般、平成 24 年 9 月中下旬を目途として予定している岐阜銀行との合併という大きな変化を踏まえ、遂行途上ではあるものの第 1 1 次中期経営計画を切り上げ、新たに中期経営計画を策定することとしました。

3. 目指すべき銀行像

当行は、「①東海地区において No. 1 の銀行」、「②岐阜県と愛知県をつなぐ銀行」、「③地域経済、地域社会に貢献する銀行」を長期ビジョンとして掲げ、かかるビジョン実現のファースト・ステップとして、岐阜銀行との統合効果の早期発現・最大化をはかりつつ、成長戦略を加速し、「新・十六銀行」としての企業価値を大きく高めていくこととしています。

4. 主要戦略

○経営基盤の強化

合併後の成長戦略を見据え、資本の内容の充実と資産の健全性の向上により、磐石な経営基盤を構築してまいります。

○合併後を見据えた愛知県・岐阜県戦略の推進

マーケットに応じたチャネルの展開、お客さまのニーズに則した商品・サービスの拡充等により、お客さまとのリレーションシップをさらに深化させ、メインバンクとしての地位を確固たるものとし、愛知県の「地元化」、岐阜県における磐石な取引基盤の確立に取り組みます。

○コストシナジーの早期発現・最大化

合併時に、システムおよび事務の統合を行うと同時に店舗統廃合を行うことで、コストシナジーの早期発現・最大化をはかります。

○経営管理態勢の高度化

リスク管理態勢、法令遵守・顧客保護等管理態勢の一層の充実をはかり、グループ全体の経営管理態勢の高度化に注力してまいります。

○企業文化・人材の融合

当行と岐阜銀行の文化・風土の融合に努めるなか、両行の行員が互いに切磋琢磨し、より高いモラルのもとで金融サービスを提供できる体制といたします。

5. 計画概要図

別添のとおり。

6. 目標とする経営指標等

項 目		目 標		備 考
顧客基盤の維持・拡大	預 金 残 高	最終年度末	5 兆円	
収 益 性	コア業務純益	最終年度末	250 億円	
効 率 性	O H R	最終年度	67%未満	$\frac{\text{経 費}}{\text{コア業務粗利益 (*)}}$
健 全 性	Tier1 比率	最終年度末	7.5%以上	$\frac{\text{中核的自己資本}}{\text{リスクアセット}}$
	与信費用率	最終年度	0.25%未満	$\frac{\text{与信関係費用}}{\text{貸出金平残}}$

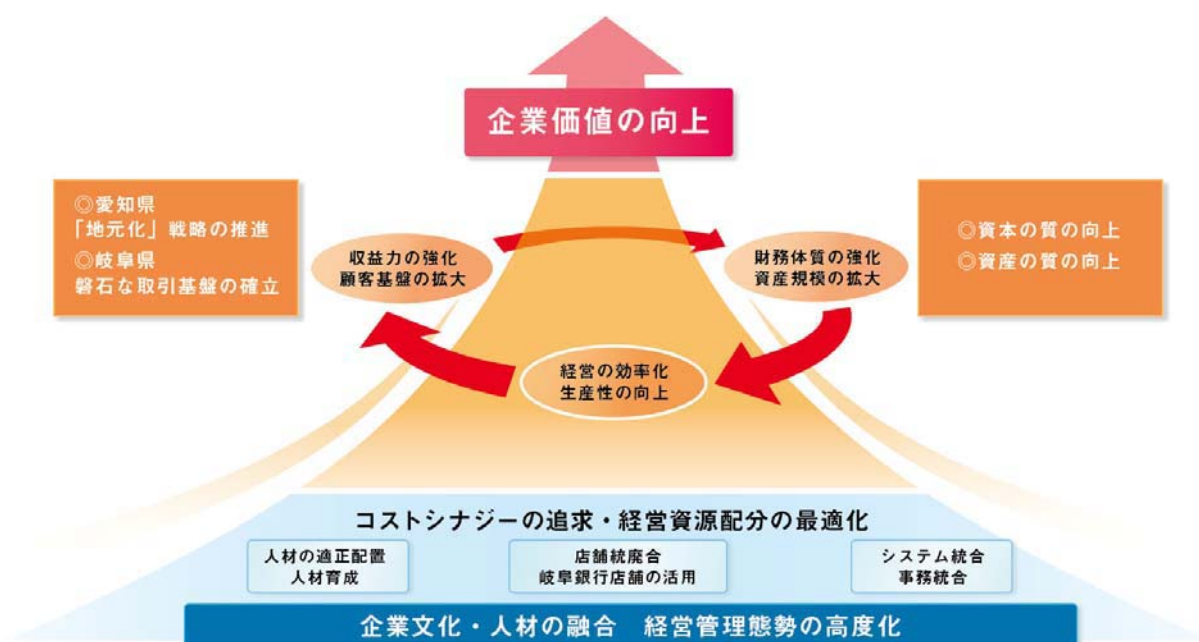
*コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

経営企画部ブランド戦略室（広報担当） TEL(058) 266-2512

1. 計画概要図



2. 本経営計画の位置づけ

